

緑の地球

GREEN

EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

- コンサート“黄河の響き”報告 P 2
- 全ジャスコ労組ワーキングツアー P 4
- 訪日研修団報告 P 5



比良山を訪れ、日本の落葉広葉樹林を見る訪日研修団。種もたくさん集めました

GENに参加するには

- ☆会員・会報購読者になる
- ☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ☆ワーキングツアーに参加する
- ☆ビデオ『森よ、よみがえれ！』を見る
- ☆使用済みテレカ・オレカを集めて送る etc. あなたのご参加を待っています！

1999・11

70

黄土高原緑化支援コンサート

“黄河の響き”成功裡に終了



中国の民族楽器と日本の尺八のすばらしいハーモニー

去る10月16日（土）、富田林市公会堂にて、高見事務局長の講演と中国民族音楽演奏の緑化支援コンサートを開きました。GENと日中経済文化センタ

ーとの共催で、その日中経済文化センターの所在地、大阪南部の人びとにもGENの活動を知つてもらうことも目的のひとつでした。ところがその日は地元の祭と重なって御囃子のなかでの開催となってしまい、350人収容の会場がガラガラになるのではと心配しました。しかし、そんななかでも来てくださった地元の方がたをはじめ、遠方からの来場も多く、220名ほどの方が集まつてくださいました。

初めてのコンサート開催でしたが、舞台、音響、照明、受付、販売、募金などたくさんのボランティアスタッフ

に支えられ、アンコールの拍手がなかりなどといったハプニングもありましたが、なんとか無事終了しました。

結果約50万の緑化資金が集まり、多くの人に中国民族音楽を楽しむとともに、中国の現状の深刻さへの理解を深めもらえたようです。すべてはなによりチケット販売や裏方として協力していただいた方がたのおかげです。みなさん、本当に疲れさまでした。また、このようなコンサート開催には、当日の来場者だけでなく、コンサートの案内をきっかけに、さまざまな人にGENの活動も紹介するきっかけになるという面もあるので、特に若いパワーのある人がこの経験を基礎にさまざまなイベントを企画してくださることを期待します。
(宮崎いずみ)

アンケートから

【講演 “中国黄土高原の緑化協力”】

- せっかくなので具体的にスライドなどを使って黄土高原の現状を語ってくれた方がおもしろかったです。
- 中国のことはほとんど知らなかったので、黄河は今も水をたたえているものだと思っており、無知を知られました。少しづつでも正しい知識を知つていてううと思います。(T・O)
- 長年の地道な活動に敬服します。中国の経済発展の裏面を理解できました。(K・M)

【コンサート “黄河の響き”】

- うまく構成されていた。尺八も聞く機会がなかったので良かった。楽器の紹介参考になりました。(R・M)
- 合奏すべて。尺八の音色が想像していたのと違つていておどろいた。とてもよかったです。琵琶の音色がすごくよかったです。弾いてみたい！
- 踊りのBGMはできれば生演奏がきたかったです。尺八の方は紋付きは今まで出てほしかったです。
- 非常に完成度が高く、安心して聴くことができ、ゆったりとした気持ちになれました。(Y・T)
- すばらしかった。特に舞踊の美しさ

にみとれました。(T・O)

- とてもよかったです。荒城の月をきて涙があふれました。(A・S)
- 初めて聞く曲なのに、どこか懐かしく心地よい音楽に出会つたことをよろこんでいます。また「牧歌」の踊りは古い曲だと思いますが、ダンスが現代的におどろきました。
- 中国の方は3人ともすばらしい演奏家で、人柄が音楽にじみ出ています。尺八の演奏もすばらしかった。
- 十分楽しませていただきました。踊りと楽器の共演がよかったです。荒城の月の演奏もすてきでした。
- 竹笛、ビワ、胡弓、どれも本当に素晴らしいでした。舞踊の、なんと



美しいこと。モンゴル、中国の大草原の様子が目に浮かぶようです。

年末カンパにご協力ください！

大同からの訪日団は、おかげさまで無事日程を終えて帰国しました。大阪、川西、神戸、京都、宝塚、交野、奈良等各地でお世話になったみなさま、本当にありがとうございました。

今回は現場の技術者の研修ということで、メンバー全員が訪れる先ざきで熱心に勉強し、大きな成果をえることができました。今回の研修をいかした、大同での今後の活躍が楽しみです。

訪日団の詳しいようすは5頁でお伝えしますが、ここでは年末ボーナスカンパのお願いです。大同への緑化基金、GENの運営資金ともに、今年はかなり厳しい状況にあります。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

作業のつごうで一律に郵便振替の用紙を同封いたしますが、最近ご協力をいただいた方には重ねてのお願いではありませんのでご了承ください。

年賀状に絵はがきをどうぞ



年賀状はもうご用意されましたか？まだでしたら、ぜひ、橋本紘二さん撮影の絵はがき、「中国・黄土高原」のシリーズをご利用ください。従来の『春』『夏』2種類に、新作『秋・冬』『緑化』の2種類がくわわり、ご好評をいただいています。年賀状には、新作の2種類が特におすすめです。

●絵はがき「中国・黄土高原」

『春』(カラー8枚)500円
『夏』(〃)500円

『秋・冬』(〃)600円

『緑化』(〃)600円

『春』『夏』は郵便番号枠が5ヶタのため、お買い得になっています。

※送料別途。1組…90円、2組…160円、3組…200円、4組…240円。5組以上ご注文の場合は、送料はこちらで負担します。

※10組以上の場合は20%引きです。

★ご注文はGEN事務所まで、電話・FAX・e-mailで。

文化祭・大学祭での とりくみ

～パネル展示・テレカ回収など～

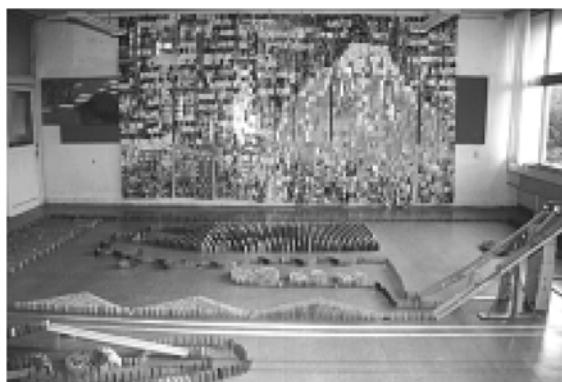
9月から10月にかけて、文化祭でGENの活動をとりあげてくださった高校が2校ありました。

ひとつは兵庫県立川西緑台高校で、前田容子先生が担任する1年7組では集めた使用済みテレカを使ってみごとな壁画を作成しました。テーマは「静と動の美」、北斎の浮世絵を題材にした富士山の壁画の前にはやはり北斎の富嶽三十六景“神奈川沖波裏”の波を表現したドミノ倒しが。展示部門で1位になった作品をご覧ください。なお、カードはテレカとその他あわせて4,23枚集まつたそうです。

静岡県立土肥高校では、夏のワーキングツアーにも参加された藤原国雄先生の

クラスがGENの写真パネルをつかった展示をおこない、最優秀展示賞を受賞しました。藤原先生は、生徒たちに呼びかけて使わないままに眠っていた文房具を集め、ツアーで訪れた大同の農村の小学校にプレゼントしたり、学年通信で黄土高原の現状やGENの活動を紹介するなど、生徒たちといっしょにGENに参加してくださっています。

また、大阪府大の大学祭でも、海外農業研究会のメンバーがワーキングツアーで見た大同の状況を報告しました。



ご寄付ありがとうございます

1999年から毎年GENの活動にご協力をつづけてくださっている富士ゼロックス端数俱楽部から、今年度もまたご寄付をいただきました。端数俱楽部と富士ゼロックス株式会社からそれぞれ20万円ずつ、あわせて40万円です。

GENのようなNGOにとって、このような協力をつづけてくださる団体があることは大変心づよく、感謝しています。大切につかわせていただきます。



自然と親しむ会

比良山で種集め

10月3日、やや怪しげな空模様のなか、約20人がJR比良駅前に集合しました。バスでリフト前まで行くと案の定(?)、強風のためロープウェイが運転中止。とりあえず、リフトでいけるところまで行ってあとは歩きとなりました。雨のぱらつくなかを、それでも時おり立ち止まってナナカマドの赤い実をつんだりしながら歩き、お弁当のあと休憩所の周囲でどんぐり拾い。思い思いにミズナラ、クヌギなどを拾い集めました。その後のバス停までの下りはかなりハードで、日頃運動不足の私は3日ほど筋肉痛に苦しみました。

この日拾ったどんぐり類は、後日事務所で水選別してみたところ、バケツ1杯ありました。事務所の冷蔵庫は、送っていただいたものやご持参いただいたものもあわせて、すっかりどんぐり貯蔵庫と化しています。

立花先生のご都合が悪くなってしまったのが残念でしたが、10月31日には訪日研修団を率いて、やはり比良山で研修と種集めを指導していただきました。訪日団の詳しいようすは、5頁でお知らせします。(東川)

いつもとちがう顔つきの私が……

全ジャスコ労組ワーキングツアー

1996年以来、毎春黄土高原にワーキングツアーを派遣してきた全ジャスコ労働組合は、今年が組合結成30周年ということで記念事業として靈丘県南庄村の小学校新校舎建設に資金協力をしてくださいました。春の起工式につづいて、秋は開校式。24名のメンバーが村を訪れ、式典に参加しました。遅くなりましたが、9/2~9/8のツアーのようすを、日誌から簡単にご紹介します。

【9月4日（土）】

●今日は上棗鎮南庄村小学校の開校式。(中略) 話には聞いていたが、“小学校”、これで…と正直思う。でも、ブラスバンドの演奏にビックリ…。村の人たちも参加。子どもたちはどこ？ 私たちをかなり前から待っていてくれて整列してた。この大自然のなかの素朴な人たち、うしろ姿が緊張している。村の人たちが集まってくる。カメラを向ける私たちを見ている。写真をとってあげると喜んでくれる。この素直な人々は、とてもステキである。元気のよい子どもたち、素直な子どもたち…。言葉の通じない私たちといっしょに遊んでくれる。

“目”がとてもきれい。この目に今日のことはどう風にうつっているのだろうか？ これからこの学校で、どんな風にどんなことを学んでいくのだろうか？ でも…学校の教材はどうするんだろうか？ いろいろ疑問がでてきたことも本音である。～これから何かできるかな？ (中略)

でも、村の人のお手伝いで穴をほってもらい、あの斜面を身がるに重い水を運んでくれるのにまたまた感動。植えている横に、前回植えた“松”がしっかり根付いているのを見て感動。本



南庄村の新しい小学校で寄贈式をおこなった

日1日中感動だらけ…。こんな充実した1日を過ごせたのは今までになかった。この松の根付いた姿を再び見たい。心からそう思った。(中略)

ポラロイド写真に写った自分の顔を見た。いつもの写真と顔つきが違う。大自然のなかで本当に充実している自分が写っていた。子どもたちも学校に満足してくれたかな？(樋渡啓子)

●そして、無事、寄贈式が終わると、交流会が始まりました。椅子取りゲームから始まり、あるところでは『だるまさんがこ～ろんだ』やおしゃべりをしている人がいたようです。私は、男の子たちとサッカーをやることとなりました。みんなたぶん、『サッカーボール』を見たことがないんだろうと思うのですが、とても無邪気で、キャーキャー声をあげながらボールをおっかけている姿は、まさに純粋で、日本でTVゲームをしている子どもばかりを見ている私としては(売場が玩具だけに…)とても嬉しく感じました。(中略) 險しい険しい山道を登り、着いた植物園で、植樹をする場所はさらにいっそう険しく、正直恐ろしかったです。でも、みんな、村の人もツアー参加の人たちも、ものすごい一生懸命で、どんな急斜面のところでも穴を掘

り、水をやり…。本当に、日本では絶対できない経験です。この経験は、自分の人生のなかでとてもとても大きな1日となりました。

便利で、物がいっぱいあふれていて、文句ばかり言っている日本の君!!

1度、中国へ来て、村の人たちと木を植えてみましょう。

きっと、人生観変わると思いますよ。それではおやすみなさい。(小林聰子)

【9月7日（火）晴】

●今回ツアー4日目でダウンしたわけですから、植樹活動も農村の方々との交流もほとんどできていません。植樹をしに来たのに何ということだ、と本当に悔しい。初めて中国に来て、黄土高原を見て、農村の人びとの暮らし方や街の様子を見て、想像していた中国と体験した中国とのギャップにかなりショックを受けた。(中略)

次回はもう一度実費で参加してみて、絶対全行程をまとうしたい。その上で自分がまだ中国にかかわった仕事がしたいと思ったら、語学勉強も体力づくりもやってみよう。それもまた駄目だったならば、違う方法で貢献できる道を模索したい。

このツアーで今まで知ることもなかった世界が押し寄せてきて、さらにはいろんな人のいろんな価値観に触ることができ、とても刺激を受けた。年長者の方の言に従えば「中国で病院に行けたのも良い経験かもよ」ということなので、前向きに考えようと思う。次回敗者復活戦、誰かいっしょに行きましょう、いえ、行ってくださいませ。

皆で植えた樹が、日照りにも風にもめげず、したたかに強く育ってくれることを祈って。(中内由美)

【9月8日（水）】

●1週間、あっという間でした。最初は食べ物やトイレ事情などで「まだ5日もある」なんて思っていたのに、残りわずかになると「まだ帰りたくない」と思っている。自分の心の移り変わりがとても心地よく、このツアーが本当に楽しく充実したものであったと思う。厳しい自然と向きあう、素直な子どもたちと向きあうことで、自分自身と素直に向きあえた気がします。本当にありがとうございました。(豊川綾)



大同の技術者が熱心に研修

今後に大きな意義をもつ訪日団

ご協力ありがとうございました



奈良・春日山の原生林をバックに。右端から郭さん、1人おいて李さん、立花先生、武さん、1人おいて王さん、1人おいて楊さん。

10月28日から半月間、黄土高原緑化協力のカウンターパート・緑色地球網絡訪日団がきて、関西各地で研修をおこないました。今回のメンバーは、武春珍（大同事務所所長）、王萍（同通訳）、楊元勝（同技術員）、郭有権（環境林センター技術員）、李向東（靈丘自然植物園技術員）の5人で、この協力活動の具体的な担い手であり、ワーキングツアーのたびに顔をあわす人たちです。

研修先も、実質を重んじたものになりました。技術の向上が大きな課題となり、また昨年から現地の技術者総がかりで靈丘自然植物園の建設に取り組んでいることから、以下のところを訪問し、学習をおこないました。

植物園関係は、神戸市立森林植物園（2日間）、大阪市立咲くやこの花館、大阪市立大学理学部附属植物園（2日間）で、樹種ごとの原産地や樹林型ごとの植栽計画から遊歩道・作業道の建設方法、種子の採取と保存、育苗方法など、多くのことを学びました。

森林も、京都の北山杉、比良山の落葉広葉樹林、六甲山の緑化の歴史、奈



神戸西農協で果樹栽培農家を見学

良春日山の常緑広葉樹を中心とした原生林など、類型別の特徴を見て回りました。熱心さのあまり、比良山では下山が6時を回って真っ暗になり、終バスに遅れてしまったほどです。

神戸西農協では、育苗や選果などの施設、ハウスによる花壇苗と野菜の栽培を見学し、さらに宝塚市山本では古くから花卉栽培を続けている園芸農家と販売店を見学しました。また到着の翌日には、日本の市民生活のあらましを理解してもらうために、川西市のお世話で小学校、市役所、公民館、ダム、公園などを案内していただきました。

これらの活動には、たくさんの会員やワーキングツアー参加者が同行し、交流と親睦を深めました。

立花吉茂代表はこのかん半分近い日程につきあい、具体的な技術研修をおこないました。現地では毎年のようにこのような研修をつづけてきましたが、植物栽培や森林の現場で、その実際を前にしながらの研修によって、土作りのしかた、植え替えの方法など、はるかに理解がすすんだようです。

各地で案内してくれた人たちにも、「みんな現場の人たちであり、これだけ熱心だとやりがいもありますよ」「この人たちのようすをみると、協力活動の前進を実感できます」と、ひじょうに暖かく受け止めてもらいました。

ツアーメンバーからも「森林が豊かなのは当然としても、花や鉢物の栽培技術の高さにびっくりした」「日本人が植物好きであることに感銘を受け

た」「これまで90度の視野で生きてきたとすれば今回で360度に広がった」といった感想が、歓送会で話されました。武春珍所長も「技術者たちは、日本の専門家のアドバイスをきいても、いままでは実感がなかったようだ。今回の研修によって、壁が破られた。これから発展にとって、大きな意味をもつでしょう」と話しています。



立花先生にたっぷりと指導をうける

各地で、可能性のある樹木の種子もたくさん集めました。植物園その他に、これらの種子が根を下ろし、大きく育ってほしいものだと思います。

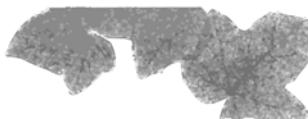
いろいろお世話になった人たちの熱心さが訪日メンバーの積極性を引き出し、メンバーの積極性が日本側協力者をいっそう熱心にさせたのだと思います。私たちのような小さなNGOにとって、人間と人間のつきあいから生まれる感動こそ、力の源泉だと思います。

今回の意義ある研修活動を資金面でバックアップしていただいた国際緑化推進センターはじめ、各所でご協力いただいたみなさんに心から感謝をもうします。

(高見)

植物を育てる (4)

立花 吉茂 (GEN代表・花園大学教授)



●休眠性種子

休眠性種子は液果（種子の周りに果肉のあるもの）が多い。樹木を例にすると、バラ、リンゴ、ナシ、サクランボ、ウメ、サクラ、アンズ、スモモ、シャリンバイなどバラ科の植物に多い。モチノキ科のウメモドキ、フウリンウメモドキ、アオハダ、ナナミノキ、ソヨゴ、クロガネモチ、モチノキ、シイモチ、タラヨウなどは、液果ではあっても休眠ではなく後熟性種子（後述）である。

休眠性種子は、温帯、寒帯などでは冬の間休むように仕組まれたものが多く、日本の気候では3~6ヶ月間休眠するものが多い。また熱帯では乾季・雨季のある地方で、乾季の期間中休むものがある。したがって、温潤地帯では、休眠するものは比較的少ない。

液果の種子の果肉には発芽抑制物質が含まれ、果肉が腐ってしまうのに数ヶ月かかるから、ちょうど休眠が破れたころに春になるわけである。鳥獣に食べられた果実は、種子が糞とともに排出され、乾燥しなければ発芽能力があり、遠くまで分布を広げるのに役立っている。

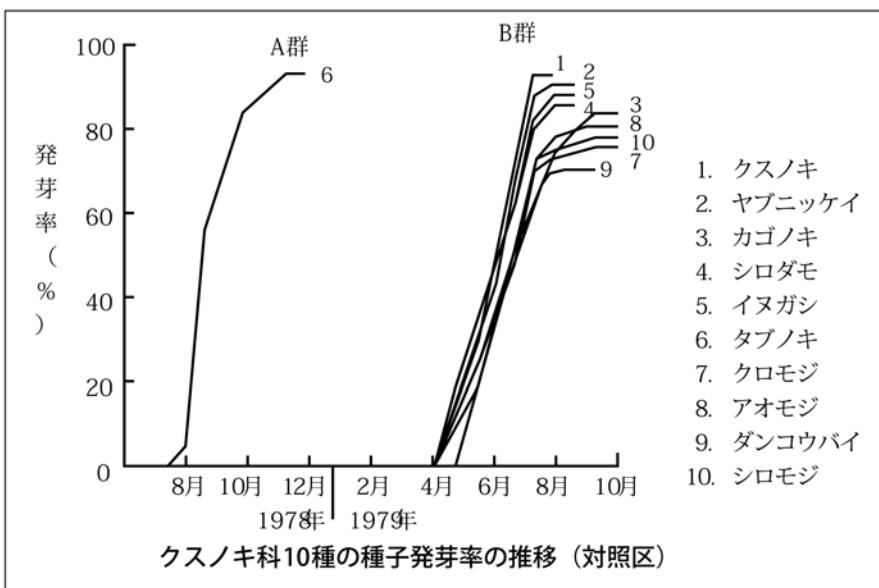
休眠打破の方法

温帯の休眠性種子の休眠打破には冬の条件を早く与えると早く休眠が破れるから、温室などに蒔いて早く育てたいときは冷蔵庫を用い、2ヶ月ほど2~6°Cにおく低温処理が良い。

果肉のついたまま、土に埋め、春に掘り出して蒔いても生えるが、発芽不揃いの傾向があるので、着色した果実を1週間ほど後熟させ、手でもんできれいに水洗し、乾燥しないようにビニ

ールの袋に入れて低温の場所における。また、きれいにした種子を「取り播き」してもよい。取り播きとは、種子を貯えず、すぐに苗床に蒔くことを意味する。

薬品処理は、多くの薬品が使われるが、植物ホルモン系の薬品を使うことが多い。オーキシンやジベレリンAがもっとよく使われ、30~300ppm程度の濃度に数時間浸し、水洗してから蒔く。除草剤を薄くして使うこともある。また、低温処理とホルモン処理を組み合わせてやることもある。硬実・休眠両方持つ種類では、硫酸処理して後、ホルモン処理をおこなう。



2000 春の黄土高原 ワーキングツアー予告

来春の黄土高原ワーキングツアーの概要が決まりました。大同市南部の広靈県・靈丘県を中心にもわる予定です。見渡す限り黄土色の黄土高原の春を体験してみませんか。

●日程：3月26日（日）～4月2日（日）
●費用：一般=16万円、学生=15万円（国際航空運賃、中国国内での交通費／食費／宿泊費、ビザ取得手数料、GEN年会費ふくむ）

※中国国際航空利用 ※関西国際空港発着 ※成田空港発着便利用の場合、

航空運賃の差額分高くなります。
※北京もしくは大同で合流ご希望の方はご相談ください。

- 定員：30名
- 締め切り：2月26日（ただし定員に達し次第締め切ります。）

新スタッフをよろしく!!

この度、11月よりGENの事務所に入りました、富樫 智です。千葉県出身の28歳、好きな食べ物はうにいくら丼、趣味は登山です。最近は運動不足で、今夏の台風の時に南アルプスで遭難しかけました。

専門は林学で、94年夏の緑化考察団

と共に大同へ行って以来、すっかり足がはまってしまい、95年夏より今春まで中国おりました。この度、訪日団といっしょに行き行動したおかげで、木の実をかじることとともに太陽を見て方角を確かめることを教わり、ほとんど初めての大同でも、なんとか迷わずに歩けるようになりました。今後、春から夏にかけて大同にいることが多くなると思いますので、1日も早く仕事を覚えて、大同の地球環境林センターと日本の事務局の両方で、皆さんとお会いできることを楽しみにしています。



ナショナルトラスト・チコロナイ チコロナイ友の会

現状報告

再出発して、5か月たちました！

ナショナルトラスト運動「チコロナイ」は1999年6月17日に、「緑の地球ネットワーク・チコロナイ部会」から活動を全て引き継いで独立し、新しく『ナショナルトラスト・チコロナイ』と「チコロナイ友の会」のふたつの組織として再出発しました。

ふたつの組織は、現在会員を募集中です。また、ナショナルトラストのための募金活動は94年12月に開始し、今は第3期を実施中です。

11月1日に、この3年以内に寄付された方281人、『ナショナルトラスト・チコロナイ』会員、「チコロナイ友の会」会員に「チコロナイ友の会」会報「チコロナイ通信」を発送しました。もし連絡が届いていない場合、「緑の地球ネットワーク」の元からの会員の方たも、「チコロナイ」の関係で会員になった方がたも、何らかの形で今後ともご協力くださるよう、よろしくお願

いいたします。

また、新しいリーフレットができています。知り合いの人や組織に配ってくださる方に、まとめてお送りします。必要部数をお知らせください。よろしくお願いいたします。

【新組織の会員登録の状況】

(10月28日現在)

『ナショナルトラスト・チコロナイ』
(二風谷現地の組織、NPO法人準備中、理事長貝澤耕一、年会費2,000円)
.....46人

『チコロナイ友の会』

(大阪中心の支援組織、代表世話人武田繁典、年会費2,000円)

.....99人

【第3期の寄付の状況】

150件(134人) 1,198,362円
(昨年12月10日～今年10月27日)
第1期からの寄付協力者は総計509人になりました。

“チコロナイ”活動報告と今後の予定

4月18日▼チコロナイ学習会「たけのこ堀りと焼き肉パーティ」

23日～26日▼二風谷植樹ツアー（参加5人）チコロナイの森で、カラマツを切ったあとにミズナラの苗木を500本植えました。春の山菜取り、アイヌ料理も楽しみました。

5月22日▼チコロナイ学習会「新しい組織について」

6月26日▼GEN会員総会で貝澤耕一さん講演「アイヌ民族にとってのチコロナイ私たちの沢」

27日▼アイヌ文化体験教室「じっくり体験木彫と刺しゅう～アイヌ文化にふれてみよう！」講師=貝澤耕一さん、貝澤珠美さん。54人参加

7月24日▼チコロナイ学習会「新しい組織について」「二風谷現地宿泊研修会について」

8月11日～15日▼二風谷子供キャンプ4泊5日(参加13人)

18日～23日▼二風谷ワーキングツアー

5泊6日(参加14人)

9月25日▼チコロナイ学習会「二風谷現地宿泊研修会等の報告」

10月25日▼チコロナイ学習会「アイヌ紋様の刺しゅう体験」

また、5月、6月、7月、9月、10月のチコロナイ学習会の前にチコロナイアイヌ語講座をおこないました。

～今後の予定～

11月27日(土) 3時～5時

▼チコロナイ学習会「アイヌ紋様の刺しゅう体験」

11月27日(土) 1時～3時

▼チコロナイアイヌ語講座

12月は休みですが、2000年1月より、第4土曜日の午後、チコロナイ学習会、チコロナイアイヌ語講座。

また、4月末～5月始めには、二風谷での植樹ツアーを予定。8月には例年通り、二風谷現地宿泊研修会を予定しています。あなたも参加しませんか。チコロナイ友の会へご連絡ください。

第48回チコロナイ学習会

- 日時：11月27日(土) 15時～17時
- 場所：大阪市立弁天町市民学習センター(JR環状線「弁天町」駅、地下鉄中央線「弁天町」駅から徒歩5分、TEL. 06-6577-1430)
- 内容：前回に続けて、みんなでアイヌ紋様の刺しゅうをしましょう。
- 参加費：100円+カンパ、材料費200円(材料は用意しています。糸切りハサミ、チャコペンシルがある人は持ってきてください。)
- 問合せ：チコロナイ友の会(武田)
- ★初めての人も、1回だけの飛び入りも大歓迎です。

チコロナイアイヌ語講座

～いやでもわかるアイヌ語～

第5期第5回

- 日時：11月27日(土) 13時～15時
- 場所：大阪市立弁天町市民学習センター(チコロナイ学習会と同じ)
- 資料代：第5期(6回) 分で2,000円
- 問合せ：平石清隆(TEL. 0745-23-5627)
- ★『エクスプレス・アイヌ語』(中川裕、中本ムツ子著白水社)の13、14のところをやります。1回だけの飛び入りも大歓迎です。(400円)

【連絡先】

『ナショナルトラスト・チコロナイ』

〒055-0101北海道沙流郡平取町二風谷31-3 貝澤耕一方 TEL. 01457-2-2089 FAX. 01457-2-3991

●寄付金、年会費の送付先
郵便振替 00900-2-52024
加入者名「チコロナイ」

『チコロナイ友の会』

〒546-0003大阪市東住吉区今川6-2-6 武田繁典方 TEL./FAX. 06-6704-7720 E-mail : vyn01123@nifty.ne.jp

●年会費の送付先
上記武田まで、切手、定額小為替または現金を郵送で。



国際交流・協力スタッフへのア クセス～国際協力を仕事として～

- 日時：12月4日（土）13時30分～16時30分
- 会場：大阪国際交流センター2階さくら東の間
- 主催・問合せ・申込み先：関西国際交流団体協議会（TEL. 06-6773-0256 FAX. 06-6773-8422）
- 参加者：国際交流・協力活動に関心があり、将来はこうした団体・機関でスタッフとして働きたいと希望する学生、社会人など約200人
- 参加費：3,000円（資料代を含む）

市民が進める 温暖化防止'99

【全体シンポジウム】

- 12月11日（土）13時30分～17時
- ★京都会議からの出発～持続可能な日本への市民イニシアティブ 浅岡美恵さん（気候ネットワーク）
- ★特別講演「自然エネルギーの利用と温暖化防止への市民の取り組み～デンマークの経験から」 ステファン・ケンジ・スズキさん（デンマーク「風のがっこう」校長）

★パネルディスカッション「市民シナリオを描く」

- 場所：池坊短期大学こころホール（京都地下鉄烏丸線「四条」駅徒歩3分）
- 参加費：無料（資料代1,000円程度）

【分科会】

- 12月12日（日）9時30分～15時30分
 - ★消えゆく森と地球の温暖化★市民がつくる自然エネルギー地域戦略★ここまでできた環境経営★貿易と環境★自転車をいかすまちづくり…など
- 場所：池坊短期大学美心館内教室
- 参加費：無料

【全体会】

- 12月12日（日）15時45分～17時
 - ★各分科会からの報告★コメントとともに 植田和弘さん（京都大学）、宗田好史さん（京都府立大学）
- 場所：池坊短期大学美心館52教室
- 主催・問合せ：気候ネットワーク（TEL. 075-254-1011 FAX. 075-254-1012 e-mail: kikonet@jca.apc.org URL : <http://www.jca.apc.org/kikonet/>）

ポンカンをどうぞ

毎年恒例、高知の田中さんからの冬のたよりです。今年はユズは残念ながら不作だそうで、ポンカンのみです。

●ポンカン（低農薬・有機栽培）

A	3L/2L	5kg	化粧箱	4,000円
B	"	"	普通箱	3,700円
C	"	3kg	化粧箱	2,600円

D	L	5kg	"	3,500円
E	"	"	普通箱	3,200円

○出荷：12月ごろ～来年2月

★送料別途。関西630円、関東840円（20kgまで）。

★お申し込みは田中隆一さんまで。

〒781-7411高知県安芸郡東洋町甲浦
TEL/FAX. 0887-29-2500

※売り上げの一部をご寄付いただいて
いるので、ご注文の際、「GENの紹
介」とひとこと添えてください。

編集後記

会員の梅村守道氏が亡くなりました。陽高県守口堡村の万里の長城で、すべりやすい斜面を這うように登る私の横を、軽く確かな足どりで追い抜いていったのが、ツアー参加者中最年長の梅村さんでした。大阪では在日外国人に日本語を教えたり、よく山や川辺を歩いたりもしておられました。ボランティア活動や、自然と親しむことを自然体で悠然と楽しんでおられました。大同を訪れたのは、昨年夏の農協観光のツアーが最後になりました。

梅村さんが「大同に持ていって」と手作りのおもちゃを持って事務所を訪ねてくださることはもうありません。けれども、梅村さんが植えた木たちや、梅村さんがこよなく愛した子どもたちには、また黄土高原で会うことができます。再見、梅村さん。（東川）